

栗島に生まれて

栗島浦村立栗島浦中学校三年 脇川 杏菜

みなさんには、自分の帰る場所がありますか。

その場所に帰ったとき、幸せだと感じますか。

周囲約二十三キロ。人口約三百人。

そんな小さな島、栗島。

そこが私にとっての帰る場所です。

今の私は、この栗島に生まれて、とても幸せだと思っています。しかし、以前の私はそうは思っていませんでした。この幸せに気付かず、全てを当たり前のことだと感じ、何とも思っていませんでした。そんな私が、この幸せに気付くことができたのは、ある二つの出来事がきっかけでした。

一つは、今年のゴールデンウィークのことです。高校に進学し、寮生活をしている姉が、久しぶりに島に帰ってきました。その日、私は姉と一緒に外を歩いていました。すると、姉に気が付き、声をかけてくれる人がいました。その人は、

「来てたのか。おかえり。」

と、姉に笑顔で優しく声をかけてくれました。他にも、

「おかえり。ゆっくりしていきなよ。」

と声をかけてくれる人もいました。

私はそのようすを見て、初めて気付きました。

「帰って来た人のことを、島の人こんなにも優しく、温かく迎えてくれるんだ。」

そう強く感じ、そして、そんな栗島に生まれたことを幸せに思うようになりました。

もう一つの出来事は、学校行事のわかめ採りです。わかめ採りは栗島浦小中学校特有の行事であり、栗島の伝統行事でもあります。

まず、秋にわかめの胞子をロープに巻きつけ、海で養殖します。そして、大きくなったわかめを四月に収穫します。

私は、今年わかめ採りは今まで以上に頑張ろうと思っていました。理由は「しおかぜ留学生の転入」です。栗島では、今年度から「しおかぜ留学」が開始され、島外からの生徒が留学生として学校に転入してきました。初めての経験で何もわからない留学生に、私は自分の知っていることをたくさん教えてあげました。すると、教えているうちに、私は栗島に生まれたことを幸せだと思うようになっていきました。

この大自然を活かし、どこの学校でもできないことを経験している。

そして、そこからたくさんを学んでいる。

そう思うと、私はとても幸せな気持ちになりました。

病院はありません。ショッピングセンターやコンビニもありません。島外には必ずあるものが、この島にはありません。さらに、島から出入りする交通手段は船しかありません。その船も、海が荒れて波が高くなると欠航してしまいます。「何もなく、不便なところ」。周りの人が見れば、そう思われることでしょう。

しかし、それは間違っていると思います。確かに、この島には多くのものはありません。毎日必ず船が出るわけでもありません。それでも、何もないわけではありません。栗島には、人の優しさがあります。人の温もりがあります。誰でも優しく、温かく迎えることのできる大きな心があります。そして、昔から島の人によって守り続けられてきた素晴らしい自然があります。

そんな栗島に生まれ、私は今日まで過ごしてきました。しかし来年、私は高校に進学します。島に高校はありません。進学するためには島外に行かなければなりません。不安なことは、たくさんあります。

しかし、私にはちゃんと帰る場所があります。この栗島があります。それだけで、私は頑張ることができるような気がします。

私は、栗島に生まれたことを誇りに思います。私にとっての帰る場所がこの栗島で本当に幸せです。